

# 地域課題を解決する農福連携への取り組み ～社会福祉法人としての実践～

社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会（福岡県）

住 所 〒804-0064  
福岡県北九州市戸畠区沖台2-4-8  
T E L 093-884-1500  
U R L <https://www.kitaiku.com>

**経営理念** 多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援すること、及び、児童福祉事業においては児童の健やかな育成を図ること、併せて、障害のある人もない人も互いに尊重し合う共生社会の実現を目指します。

**事業内容  
及び定員**

就労移行支援事業	44人
就労継続支援B型事業	246人
就労継続支援A型事業	54人
通所型自立訓練	18人
宿泊型自立訓練	56人
生活介護事業	273人
施設入所支援事業	30人
グループホーム	201人
短期入所	18人
放課後等デイサービス	60人
合計	1,000人

【北九州市内 32事業所 グループホーム39箇所】

**収入**  
(法人全体)  
平成29年度決算

①社会福祉事業	2,754,869,258円
②公益事業	81,661,806円
③収益事業	5,479,259円

**職員数**  
(法人全体)

当面する  
経営課題

第4次中期経営計画  
(平成30年4月1日～平成35年3月31日)

4つの基本戦略

- ・良質かつ安全なサービス提供の実現
- ・地域における公益的な取り組みの強化
- ・人材育成の強化と良質な人材の確保
- ・公正かつ透明性の高い経営を可能にする基盤の確立

## ➡ 地域課題を解決する農福連携の取り組み ～社会福祉法人として実践～



社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会  
農福連携プロジェクト  
富永 英伸 松崎 泰典 岩倉 聰 小松 啓子

## ➡ 取り組みの背景

- ▶ 北九州市における農業就業人口と作付面積の減少
- ▶ 北九州市での障害者数（平成29年3月末）
  - 身体障害者 51,318 人
  - 知的障害者 10,273 人
  - 精神障害者 14,908 人
- ▶ 当法人の規模
  - 27事業所、11事業の障害福祉サービスを提供

## 取り組みの目的

北九州市全域で事業展開する法人のマスメリットを生かすことで下記の目的を達成する

- ▶ 障害のある人の工賃の向上につなぐ
- ▶ 障害のある人と地域の高齢者、子ども、生活困窮者などとの交流を通して、地域課題の解決に貢献する
- ▶ 障害のある人を中心の農業を展開することで、農業就業人口や作付面積の減少への改善を図る

## 活動経過

- ▶ 平成28年5月  
(社福) 北九州市手をつなぐ育成会  
八幡西障害者地域活動センターにおいて、野菜作りを開始、地域の住民の協力のもと農地を拡大
- ▶ 平成29年9月  
北九州市八幡西区下畠の農地へと拡大
- ▶ 平成30年6月  
もち米作りを開始





## 3ヶ年計画による主な事業展開

(平成30年度～平成32年度)

### I 環境整備

#### (1) 自然栽培

農薬・化学肥料を使用しない栽培

#### (2) 平成30年度農山漁村振興交付金 採択

下畠農地の作業環境の整備

#### (3) 農地拡大

北九州市内の休耕地を活用



### II 営業活動

#### (1) 法人食事サービスへの活用

安心安全な食材提供

#### (2) 加工品開発

試作品を製品化する技術力の取得

#### (3) 販路の拡大

法人内販売から一般市場へ

### III 地域交流

### (1) 農福マルシェ等への参加

## 自然栽培のPR活動と販促効果

## （2）地域住民との交流

幼児、小学生、中・高生、高齢者など多様な人たちが農地に集まる継続的な取り組み

## 法人における農福連携の取り組みが新聞に紹介 ～幼稚園児を招いてじゃがいも掘り～

毎日新聞 2018.8.15

耕作放棄地を活用 就業扶助

北九州市内で約30の知的障害者施設を運営する社会福祉法人「北九州市手つなぐ育成会」(戸畠区)が、農業の生産現場で障害者が働く「農福連携」を進めている。市内の耕作放棄

地元活用し、地域の児童会機関として、高見山に向かうにけるのが目的だ。取り組みの先頭に立つは、西日本書籍サービス事業部（八幡西区書籍販売センター）が先頭。近所の幼稚園を園庭に招き、タトゥイ子を収穫する教育を開いた。【宮川信子】

## 北九州地区手をつなぐ育成会 園児と楽しく収穫

「耕されたよ。」福岡西区役所の「下園畠」に、近所の「あかね風園」の園児の人達が、スコップ手押しジャガイモを収穫した。収穫したジャーナルの利用者、波多野麻理さん(48)は「一緒に収穫できて嬉しい」と笑顔で見つった。

セグターリアの園地で、芽吹き出たのは、甘藷の根の葉の利用者の初回は即完売。また、古木時代甘藷やバーベル、工芸用植物なども購入でき、「貯めて価値決定作業が先に取りて高見山は頑なない」と、将に期待を持てている「うみみ

「あつた」と松齋樂センターへ  
打開策を考る中、敷地内の小さな空き  
ベースでミニトト、やキュウリなどの栽培  
を始めた。すると、それまで窓内での作  
にはなじめなかた利用者が参加するよ  
になった。昨年9月、空き地を借り受け

ジャガイモを発見と収穫するセンターの利用者

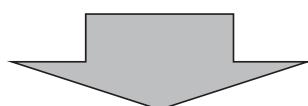
## 障礙者「農福連携」

## 農福連携により感じている効果

- ▶ 工程分析により、年齢、障害の程度を問わずに利用者が関わっている
- ▶ 農地を拡大させることで、利用者と地元住民との交流が広がり、障害者理解が深まっている
- ▶ 安心・安全な土に触れ、利用者に主体性が生まれ、表情にも生き生きとした変化がみられている

## 「基盤作り」から「拡大・充実期」へ

当法人が農福連携に取り組んで2年4ヶ月が経過し、  
障害のある人が関わることの有効性を確信できた



農地の拡大、販売促進を進め、より多くの障害のある人の働く場を広げ、さらには、地域住民と障害のある人が集うことができる場所となることを目指して、法人全力で取り組んでいく